

## 第167回 国際研修に参加して

千葉保護観察所 阿部 勇太

### 1 私の参加した研修について

平成29年8月22日に入寮して、同年9月22日に退寮するという1か月の日程で、国内から7名、海外から14名が参加しました。国内参加者は警察官、検察官、裁判官、刑務官及び保護観察官という構成でした。海外参加者は警察官、検察官、刑務官、保護観察官で構成されていましたが、「保護観察」制度自体がない国も多くありました。

テーマは、「組織犯罪メンバー及びテロリストの更生及び社会復帰」というものでした。当初テロリストについては、普段の業務でなかなか接する機会がなく、イメージが湧きづらかったのですが、海外参加者の中には、テロリストの更生と社会復帰に切迫した問題を抱えている国もありました。日本はこの分野において十分な知見があるとは言えない（と個人的には考える）ため、学ぶことが多い研修でした。

今回の研修を通じて具体的に学んだ例としては、まず、テロリストといった場合、それが宗教的イデオロギーの影響によりテロ行為を行った者かどうかを見極める必要があり、宗教的イデオロギーの影響を受けた者である場合、その矯正教育の過程において宗教指導者（例えばイマーム）の協力も必要になってくることが挙げられます。次に、現在実施されている過激主義からの離脱プログラムとしては、「仕事などで活躍の場を与え、自尊心を高めるアプローチ」、「宗教的思考方に働き掛け暴力を正当化する考え方を变化させるアプローチ」及び「家族を核として穏健な集団に信頼感を移すアプローチ」があることを知りました。また、テロリストを収容している多くの国の施設では、他の受刑者と分離して収容していることも学びました。これらは飽くまで一例ですが、テロリストの場合、更生させられずに社会に戻ってしまえば、多くの人の命が危険にさらされることとなりますので、問題性に応じた処遇を的確に行っていくことが必須となります。既にテロリストを収容している参加国の参加者にとっても、テロリストの「収容」まではできているものの、その後どのように矯正教育を行い、そして更生させていくのかという視点は大きな参考になったように映りました。

一方、テーマに直接関係せずとも、カリキュラム外の時間に研修員同士でお互いの国の制度を説明し合う場面もあり、例えば刑事裁判において、保護観察官が参加し、意見を述べられる制度を持っている国もあるなどこれまで自分の知らなかった知識も得ることができました。また、これは同時に世界の中で日

本がどのような国なのか、どのような制度を持っていて効果を挙げているのかを意識する場面でもありました。自国の良い制度は積極的に海外に発信していくことも大切な役割であることがわかりました。今回の研修では、日本の強みの一つである「保護司」と研修員が関わる機会も多くありました。保護司制度を持っている国は少なく、海外参加者は直接保護司宅を訪れたり、意見を交換したりする機会に恵まれたため、地域で更生を支えていくという考え方も伝えることができたのではないかと思います。また、更生保護の広報キャラクター、「ホゴちゃん」にも興味を持ってもらうことができ、自分の国でもキャラクターを作ることを考えてみる旨話してくれた参加者もいました。

以下、これから参加する機会に恵まれた方、このような素晴らしい研修に興味をお持ちの方を想定して、項目ごとに所感等をまとめたいと思います。

## 2 雰囲気・課外の過ごし方

参加者全体の雰囲気は終始非常に良いものでした。日本人参加者が海外参加者を迎えたその日から、全員が常に明るく笑顔でお互いを尊重して過ごせました。それは参加者全員が全員と仲が良かったと言い切れるほどのものでした。その分、最後の別れは辛く、私も含めて涙を我慢できない参加者が何人もいたほどです。

会話も日常の些細な話題から、お互いの国の制度を熱心に語り合うなど非常に内容の濃いものでした。宗教や体質的にお酒を飲まない参加者も多かったですので、日本での親睦の深め方もまた違ったものがありました。

課外の時間は十分にあるのですが、日本人参加者は行事の企画をしたり、海外参加者の日本での生活をサポートしたりしているため、日程上よりも忙しかった印象です。しかし、その過程で海外参加者との距離が縮まったと思いますし、海外参加者が喜んでくれることが嬉しくもありました。私の印象ですが、海外参加者は、比較的率直な言葉で自分の気持ちを伝えてくれたり、頑張ったことをすぐに褒めたりしてくれるので、お互いを尊敬し、大切にできる良い関係がすぐに築けたと思います。なお、海外参加者のサポートについては、日本人参加者同士がお互いの個性を生かして上手に協力できたことも大きいです。休日の自主企画の行事としては、皇居・東京タワー散策、阿波踊り見学、サッカー観戦、相撲観戦・浅草・アメ横散策及びソラマチでのショッピングでしたが、これらのほとんどは海外参加者の意向を反映させたものです。それ以外にも一緒に新宿まで買い物に出掛けたり、卓球を楽しんだり、輪投げ大会を開いたり海外参加者が公式行事で不在だった週末を除けば、常に一緒に過ごしました。また、海外からいらした講師の方とも課外時間に一緒に出掛ける機会にも恵まれ、人とのつながりを強く持てる環境で

した。

### 3 英語について

英語力はあるに越したことはありません。理由は何よりも一番に、「もっと海外参加者と色んなことを話したい。」と思うからです。また、これは私の失敗でもありますが、事前に示されているテーマ及び自分の業種と関係のある英語の専門用語は覚えておいた方が良くと思いました。これは単語の種類が日常会話でよく使うものとは異なるため、意識して覚えていかないと踏み込んだ話をする際に苦労したからです。研修前に示される参考資料については、目を通して単語のチェックをしておくと思えます。特に日本人は英語に慣れていないと最初は英語で会話することに躊躇があるかもしれませんが、少しでも早く英語の環境に適応するためにもためらわずに話した方が良く感じました。相手も自分の話を理解しようとしてくれるので、きっと伝わると思えます。

### 4 支援者の方々

研修は私たち研修員だけでなく、UNAFEI（及びアジア刑政財団）職員の方々や保護司など多数の方に多大な支援をいただきました。一日一日を皆で良いものにしていくという非常に建設的な研修を作ってくださいました。研修員を代表して改めて感謝の意を述べたいと思います。

### 5 その他

研修中早々に作られた研修員同士のSNSのグループは非常に重宝しています。研修中は皆に一斉に連絡をするのに役立ちましたし、今でも毎日たくさんメッセージがやりとりされ、つながっています。今後もこの関係が続いて、お互いが高め合っていけることを期待しています。プライベートだけでなく、将来仕事上の国際的な場で再び参加者たちと会えるように私も努力したいと思います。